

# 本年も力を合わせ前進しましょう

## 本格稼働の年にふさわしい取りくみを

会員の皆様も新しい年を意気高く迎えられたことと思います。昨年は、私たちが待ち望んでいた骨髄バンク事業もドナー登録や患者登録が開始され、本格稼働へのスタートの年でした。

ドナー登録者数も一万六千人を超え、一〇万人の目標に向けた初年度としては評価してよい数字であると考えています。

本年は、早々にも初めての骨髄移植が実施されると聞いていますが、関係者の皆様の努力の賜であり、私たちにとても大きな喜びです。

本格稼働の本年、普及啓発活動、検査・医療体制の充実、組織の拡大・強化など、課題は山積みされております。

また、ドナー負担軽減のための特別休暇制度の創設について、人事院・自治省等関係機関への要望活動も早急に強めねばなりません。

本年も会員の皆さんと力を合わせ前進したいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

全国骨髄バンク推進連絡協議会の皆様！ 新年おめでとうございます。一九九三年がバンク飛躍の年であることを切望して、日頃の私見を述べて、御挨拶に代えさせていただきます。

昨年の麻酔事故以来、ドナーの伸びが急落したことに對しては、去る福岡での骨髄移植研究会のシンポジウムで、「あの事件を教訓として骨髄移植に当たる医療陣が再発防止に全力をあげれば、今後は絶無になる。」という一演者の誓いにも似た言葉で、ドナー勧誘を進めたらと考えます。次に財団の予算不足に對しては、協議会は全国ブロック別に支部(当面自営だが、将来は財団支援)を設立して、ドナー募集と共に募金にも努めたらと考えます。これこそバンクと協議会との理想的な協力体制といえましょう。今、世界の先端を走る米国バンクの予算は、国・支援団体・患者がほぼ均等に分担されていることを銘記して頂きたいものです。



海部幸世 会長



服部絢一 副会長

### ごあいさつ

# 全国協議会 ニュース

発行所  
全国骨髄バンク  
推進連絡協議会  
〒130 東京都墨田区  
東駒形1-16-7  
第1ホークプラザ303号  
TEL 03-3625-7307  
発行責任者  
運営委員長 宮戸征美

郵便振替口座  
東京 5-15754  
銀行口座  
さくら銀行 新宿支店  
普通 5666655



▲(前列左から)陽田事務局長、山崎副委員長、宮戸運営委員長、大谷副委員長、秋山運営委員

(後列左から)笠原、小林、野村、和田、円東、渡辺運営委員



宮戸運営委員



田中副委員長

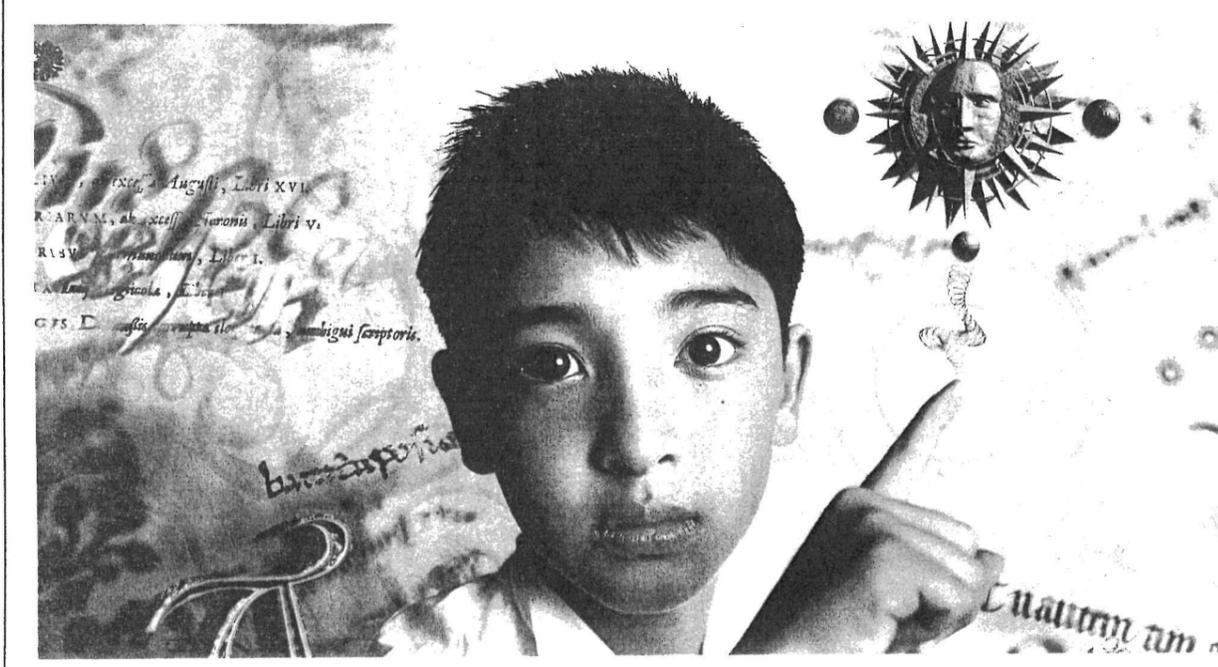
### 本年もどうぞよろしく(運営委員会)

三重	221
京都	226
大阪	508
兵庫	885
奈良	378
和歌山	105
歌	49
(小計)	2,372
鳥取	31
島根	64
岡山	349
広島	639
山口	173
(小計)	1,256
徳島	41
香取	60
茨城	74
栃木	76
(小計)	251
福井	738
佐賀	126
長門	142
熊本	148
大分	70
宮崎	82
鹿児島	132
沖縄	95
(小計)	1,533
合計	16,282

### 都道府県別 登録者数 (12月末現在)

都道府県	登録者数
北海道	1,239
(小計)	1,239
青森	66
秋田	157
岩手	49
宮城	307
山形	51
福島	259
(小計)	889
茨城	199
栃木	196
群馬	188
埼玉	444
千葉	487
東京	3,380
神奈川	1,009
(小計)	5,903
新潟	449
富山	60
石川	101
福井	41
山梨	66
長野	238
岐阜	198
静岡	570
(小計)	1,116
(小計)	2,839

1日も早く  
10万人の登録を



### あなたに、 情報のちから。

驚くような事実も、社会を大きく変えるような発明・発見も、そこに心を動かされる人がいなければ、きっと世界の片隅に埋もれていってしまう。

語り継ぐ人がいて、形にする人がいて、事実は始めて情報になる。そして遙かな時を超えて出会い、つながり、新たな進化を遂げる。

歴史は、情報の物語。私たちは、そこに何をみいだし、どのような形にして、次の世代へ語り継いでゆけばいいのだろうか。

NTTグループは電気通信の技術とノウハウをベースに、様々な産業分野に多彩な事業を展開しています。

あなたが求める情報のちからを、あなたが求めるシーンに、未来へ語り継ぐべき物語を確実に形にしています。



# 新春座談会

## 「骨髓バンク事業の前進に向けて」

### 今年の課題を語り合う

1月11日、「骨髓バンク事業の前進に向けて」のテーマで、本年の課題について座談会を行いました。

出席は、骨髓移植推進財団・高久副理事長、厚生省疾病対策課・東井課長補佐、全国協議会・宮戸運営委員長。司会は全国協議会会報担当の笠原です。

## 今年の課題

「コーディネーターの養成、基金・地方組織の充実を」高久  
「試行錯誤から、より確かなものにしていく年」東井  
「ボランティア組織の充実・拡大を」宮戸



高久 副理事長

司会―はじめに、今年の課題について、それぞれお話しいただきたいと思ひます。

高久―昨年12月の全国大会の際、協議会の皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。ボランティアの方が多く、手際の良さに感心しました。財団としての当面の課題は、コーディネーターの養成、基金の充実、地方組織の充実の三つがあります。又、検査体制や移植体制の充実の課題は、厚生省や日赤にお願いし、強化していかねばならない課題です。東井―昨年は事業の土台づくりの一年だったわけですね。



東井 課長補佐

公平性、公共性を担保した広域的な事業運営を図る上で、全てが全く初めてであり、試行錯誤の年だったと思ひます。

今年、それをより確かなものにしていく年にしていくには、基本的には、高久先生のお話しと同じですが、特に、一〇万人のドナー登録のために、効果的な普及啓発活動やドナーの負担軽減の課題が重要だと考えています。

宮戸―全国協議会は、組織の充実・拡大が課題です。現在18の組織で、九州は7県で構成されていますので、都道府県数では24ということになります。

従って、全国にボランティア組織を確立することと既存の組織充実(3倍増ぐらいの会員数にすることができればと思ひます)。

## ドナー負担の軽減は急務



宮戸 運営委員長

司会―東井さんからも、ドナー負担の軽減の話がありました。この点について、東井―先日、自治省からドナーの休職は病休扱いにせよとの通達が出されたわけですが、これは経過的な措置であり、十分ではありません。

一つは、献身的で健康な提供者を病人扱い、それも入院時だけが病休で、検査や登録・コーディネートの日は有給休暇扱いです。二つめは、現在既に職専免の休暇が実施されている、北海道・茨城・静岡・広島や現在検討段階にある地方自治体に対し悪影響が及ぶ恐れがあるわけですね。厚生省としては、提供しやすい環境づくりに引き続き努力していかねばと思ひます。

宮戸―協議会としても大変問題だ、ということですね。近く

人事院と自治省に要望書を出す予定です。

## 話題性のある普及活動を



会原 司

司会―普及啓発の課題はどうでしょう。

高久―マスコミで取り上げていただく話題が必要だと思ひます。

移植第一号が今月末から

## 強めたい資金・地方組織の充実

司会―資金面も含め、地方の

組織づくりについてお願い

## これで運びます 骨髓液運搬バッグ



宮戸―協議会への加盟数は、都道府県数ではちょうど半分なわけですが、財団の協力もいただきながら、少数で活動されているところにも声をかけて、組織づくりに特に力を注ぎたいと思ひます。

また、全国協議会も地方組織も資金的に非常に苦しい現状で、財団にも知恵を借りたいと思ひます。高久―資金面では、先日経団連にもお願いしましたので、協力が得られると思ひます。又、協議会の皆さん

## 広がるドナー休暇

1992年	4月	広島県	島田市
"	6月	茨城県	取手市
"	7月	茨城県	大越町
"	7月	福島県	越前市
"	10月	北海道	札幌市
"	11月	静岡県	岡部市
"	12月	北海道	道庁
"	12月	茨城県	竜ヶ崎

には、普及活動の分野で大いに協力していただいておりますので、何かの形で御援助ができれば、と考えています。

地方組織の充実・確立については、ボランティアの皆さんとドッキングできるような形を検討していきたいと思ひます。

東井―行政・ボランティア・財団の連携が今後益々重要になると思ひますので、厚生省としてもその方向で努力したいと思ひます。

# 今年もがんばります。

## 各地の代表者の抱負

### 北海道

#### 「登録者との コミュニケーションを」



武田 事務局長

ドナー登録の確実な増加を目指し精一杯がんばります。しかし、今それ以上に登録者の方々のコミュニケーションを深め、正しい情報の伝達や励ましあえる場をつくることの必要性を痛感しています。骨髄バンクは、実際に提供を決断されるドナーがいなければ機能しないのです。ドナー事故が発生した後だけに、登録者の善意にだけ頼るのではなく、ドナーとその家族の不安を解消できるような情報を伝える広報紙の発行が、今年の大きな目標です。

### 宮城

#### 「東北の各県と 協力しあって」



吉永 理事長

宮城推進協議会です。今年で三年目に入りました。ただ

### 福島

#### 「四百件の登録を めざして」



嶋田 運営委員長

昨年目標としていた県内四市(郡山・福島・会津・いわき)でのシンポジウム等の実施を実現することができました。

昨年十二月には、いわきと会津の血液センターで採血・登録が開始され、登録しやすい状況になりましたので、今年には県内での四百件登録を目指して普及啓発活動に努めたいと思っています。平成五年度の具体的な活動計画は決定していませんが、各支部ボランティアの皆さんの英知と情熱を結集して「命の贈りものプログラム」を積極的に実践して行きたいと思

### 新潟

#### 「受入れ体制の 充実めざして」



小林 運営委員長

骨髄バンクという種は作ってくれたが、蒔いたのはコンクリートの上。国の姿勢に対してこのように感じる。善意の行為に対する十分な受入れ体制が整っていない。私達はコンクリートの上に肥料や水を与えているように思うときがある。柔らかな豊かな土壌がなければ骨髄バンクも育たない。今年はこの固いコンクリートを砕くため、柔らかな土壌で活動を展開して行こうと思います。

### 長野

#### 「二日も早い無菌室 使用を求めて」



斎藤 事務局長

長野県では五月に、県立こども病院が開院されることになっており、無菌室三床が用意されている。しかし予算不足により、平成六年四月以降までは使用不可能であると言

この無菌室の一日も早い使用開始を求める活動が今年の軸となると考えている。

### 埼玉

#### 「自治体との連携を 更に強めて」



秋山 会長

昨年より、更に、地元地方自治体との連携を強化し、「草の根運動」を続けていくつもりです。

骨髄バンクのポスターが、県内いたるところに掲示されているように努力する。その為には、県とは勿論、市町村の地方議会との結び付きを強めると共に、県内広範囲に組織力を持つている団体にも協力を要請していく。既に各会員の地元(九市)より協力承諾を得ているが、その輪をさらに広げられるように、各会員の地元での活躍を期待しています。

### 千葉

#### 「県の協議会を軸に 啓蒙活動を」



君塚 会長

骨髄バンク事業に対する体制として、県衛生部主催によ

### 東京

#### 「首都の担う役割 の大きさ自覚し」



野村 代表

いつも似た顔ぶれのシンポジウム一辺倒では仕方がない。はつきり言って前途は明るくない。今のままでは一〇万人のドナーバンク達成は難しい。そんな状況で首都東京の担う役割は大きいと自覚している。会員が力を合わせて新しい形を模索して行かなければならぬ。幸い東京都も積極的な姿勢を見せ始めた。今年が正念場だろう。毎月欠かさず発行して好評を載している通信(会報)の紙面を注目して欲しい。

### 神奈川

#### 「支部作りと ネットワーク化を」



渡辺 会長

新年早々、愛知県と名古屋が「骨髄バンクへの登録・採取時の勤務免除制度決定」とビッグニュースが飛び込んできた。今年、ボランティアの組織替えをし、新たな出発をしようと思っていた矢先だったので、さい先よいスタートとなった。今年、今後のドナー拡大のための本格的組織作りを専念するつもりである。

### 岐阜

#### 「活動範囲を 全県に広げて」



田中 代表

BMT神奈川では、もっと広く知らしめるべき、啓蒙啓蒙活動を神奈川全県下に、まなく押し広げるために、運動体のネットワーク造りを考えています。昨年の暮れに二回シリーズでシンポジウムを開催した川崎では、実行委員会を組織した何人かが中心に支部として活動しつつあります。また、今年、厚木市にそして小田原市にまた、鎌倉市にそれぞれ支部拠点を設置したいと考えています。これら二十万以上の都市に支部拠点を設置して、それぞれの支部がその近在の町に影響を与えて行く、このようなネットワークを組織して、よりきめこまやかな活動を進めたいと考えています。

### 名古屋

#### 「本格的組織 作りを専念」



大谷 代表

二月二十日の大分を皮切りに各地でシンポジウム・勉強会等を開き、献血者に登録を呼びかけるチラシの配布、多くの企業等にパンフレット設置のお願い等をしていき、各自治体・血液センターとも協力してドナー登録五万人を目指して頑張っていきたいと思

### 三重

#### 「普及啓発活動を 積極的に」



南 会長

私達「勇気の会」は、平成四年に設置された「三重県骨髄バンク推進協議会」の事業推進の要として、シンポジウムの開催、街頭啓発活動及び成分献血への協力等積極的に活動してきました。平成五年以降も、骨髄バンクの必要性について普及啓発活動を積極的に実施していく予定ですが、今後の課題である医療施設、

### 九州

#### 「自治体、センター との協力強め」



秋吉 代表

医療スタッフの充実・確保、さらにコーディネーターの養成について要望していく予定です。

### 静岡



八木 会長

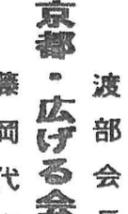
原稿が寄せられなかったため、以下、会と代表者名のみとしました。ご了承下さい。

### 青森



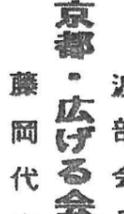
根井 事務局長

### 秋田



波部 会長

### 京都



藤岡 代表

